

| | |
|------------------|---|
| Title | The new world: problems in political geography, by Isaiah Bowman |
| Sub Title | |
| Author | 間崎, 万里(Masaki, Masato) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1923 |
| Jtitle | 史学 Vol.2, No.3 (1923. 5) ,p.157(463)- 158(464) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 書評 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230500-0157 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

The New World: Problems in Political

Geography, by Isaiah Bowman, New

York, 1922. Pp. VIII + 632

大戦後の世界地圖は、殊に歐洲と西亞の部分に於て、新興諸國の爲に著しく複雑を加へ來つた。之を中歐の諸國に見るも戦前に於ける其國境は約八千哩であつたのが、今は一万哩に増加し、其中の三千餘哩が新國境である。(本書三頁)そして是等は何れもそれだけの主張に基いて協定されたものであるが、接壤の諸國にはなほ之を以て満足し得る最終の形態であると思ふべきものが甚だ多い。隨つて世界の危険地點と衝突地帯は著しく増加した譯である。本書の四頁に示す圖面(歐洲と西亞の要部)に於てその數が三十二點に及んでゐる。斯の様に問題が多く且つ複雑になつて來た新世界の現状を容易く理會しようとするのには、さうしても何等かの便利な手引が必要となつて來る。本書は實にこの要求を充たさんとするものであると言つてよい。

本書のうち、先づ直接日本に關係のある部分を開いて見ると(五〇五—六頁)

日本の未來の關係を豫想するとき、列強(殊に米國)は次の諸問題に出會するとて、人類平等問題、日本の大陸政策、南洋委任統治問題、朝鮮自治問題等を列擧したる中に、山東問題について次の如く言つてゐる。

日本は不定なる時期の終末に於て、果して承諾せるが如くに山東を放棄するであらうか。而して日本が之を放棄するとせば、そ

の商人はこの地の政治界に強固なる勢力を布いて、支那政府がその主權の行使を回復せる際、必然に之と衝突を來たすことばないであらうか。(獨逸は一八六四年にシユレズウィヒ・ホルシユタインの一般投票を約し、チリーは一八七九年乃至八四年の對ペルー戦後に、タリナ・アフリカの一般投票を約した。然るに兩國は是等の嚴肅なる約束を履行しなかつた。)とて、日本の誠實を疑はんとするかの如き餘計なる文章を括弧内に加へ、又日英同盟の終焉に關しては(二六一—七頁)

一九二〇年日英同盟の改訂の時期が到來するに及んで、日本の臣民が英國の自治領に於て特權の平等を享有し得ない事を理由として、反對は日本より起された。日本の平等の訴に對し極力反對せるは濠洲、ニュー・ジラランド、カナダであつた。日本の臣民が多數是等の地方に移入し、諸般の財産、特に土地の獲得を許可されたらば、印度に於ける英國の臣民も又自治領への入國を主張するであらう。その結果、白人はその地に於て有色人種の巨濤に沈溺せしめられるであらう。

日本が英國より望みの讓歩を得たりとすれば、其臣民の自由入國と、在米日本人の約半數を占むる加州の同國移民に對する制限の撤廢を米國に強要し得るであらう。太平洋の白人の土地にアジヤ人の移入すべき門戸を閉鎖する事に於て、英の自治領と米の人民は密接なる諒解を齎らすに至つた。こは太平洋の平和に對し最も強固なる保障である。云々と説いてゐるが如きは例の米人一流の見解を示せるものであるが、總じて本書が世界の全般に亘つて政治地理學上最新の諸問題を捕へ來つて、一々之に解説を施し、

し、邦書に見難い極めて精細なる新圖二百十五個を挿入して、問題の要點を一目瞭然ならしめてゐるのは、大に本書の誇るべき部分である。六十五個の寫眞版及び卷末の參考書目も亦有益である。但し五八三頁の『ブリタニカ第十二版(一九一一年)』などは如何かと思はれるが、「誤りは人間の特性である。」數へ來れば斯の様な誤りは他にも發見されるであらうが、これは本書の如き廣汎なる概説に於て免れ難い事であらう。本書の特色とすべきは全體に於て如何にもよく纏つて居る點である。吾人は本書に於て逸早く大戦後の紛糾せる世界の大勢を窺ふべき手頃の良書を得たる事を偏に欣ぶものである。

(間崎万里)

Durant Drake-America faces the future. N. Y. 1922.

アメリカ合衆國の政治組織はこれを單に理論の上からのみ見れば假令米國人が世界第一の政治組織であると自負してゐるまでのものではないとしても、現在優等の部に屬するものと云つてよからう。眞の民主政治が専制政治に優ることは誰しも否まないであらう。乍然民主政治の神髓が確保されない場合には民主政治そのものゝ價值は著しく減少し却つて惡むべき多くの弊害を伴ふものである。今日合衆國の政治が果して一七八六年に憲法を制定した合衆國の建設者等が理想としてゐた自由平等の大精神に基いて運

用されてゐるか甚しき疑問である。進歩は弊害を産み弊害は改善を促すこれ社會向上の常軌である。

合衆國の政治社會兩組織發達の歩は現今停頓の域に達しこれより生ずる弊害は獨り益々旺盛に赴きつゝあるかの觀を呈してゐる。特權を求め自利を逐ふものは獨り合衆國々民のみに止まらないうだらうけれどもこの傾向の特に甚しきものを合衆國に於て見る。

本 は現在合衆國が陥りつゝある各方面の欠陥を指摘して國民の覺醒を促さんがために著ばされたものと思はれる。著者は一自由・二平等・三民主主義・四能率・五愛國心の五大問題を捉えこれを政治社會産業教育の各方面より批判してゐる。合衆國の如き共和制の國家に於ては國民は等しく政治的自由を平等に享受すべき筈のものである。然るに今日合衆國の選舉界を左右してゐるものは政黨であつて政黨の運命を握れるものは所謂ポツスである。而してポツスは金權の力によつて支配されつゝある怪物である。合衆國は十九世紀の中葉に起りし産業革命の結果資本家の勢力は日を逐ふて増大し、今日合衆國の國家を支配しつゝあるものは全然資本家の勢力である。市民の自由もこれが抑壓の下に在り憲法の保證もこの大勢力の下に於ては微々たるものである。資本家が自利に走つて他を顧みない醜き有様は著しき現象である。辯論の自由が極端に抑壓せられるのも亦資本家保護の目的のためである。著者は全編に亘つて合衆國の陥りつゝある此等の病弊を赤裸々に解剖し且つ批判してゐる。

(恒松安夫)